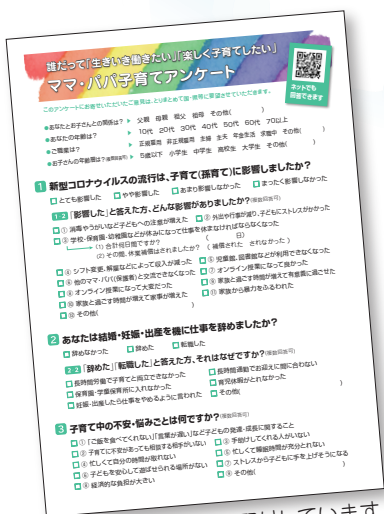


誰だって「生きいき働きたい」「楽しく子育てをしたい」

# ママパパ子育てアンケートにご協力ください



アンケート用紙をお配りしています



日本共産党埼玉県委員会では、誰でも「生きいき働きたい」「楽しく子育てをしたい」というママ・パパの思いをアンケートで集め、国や県に要望したいと思っています。また、2年以上にわたって続いているコロナ禍によって子育てにどんな影響をうけているのかおうかがいし、ただちに対策をもとめていきます。

子育てにかかわっている方すべてが対象です。ぜひ、ご協力ください。

## 子育てを応援する やさしく強い経済へ

日本共産党の提案

### 8時間働けばふつうに暮らせる社会に

- 国が基準を定めている、介護・保育などケア労働の待遇を国の責任で改善しよう
- 最低賃金は時給1500円に

### 教育費の負担減らそう

- 学校給食の無償化をすすめるなど、本当の義務教育無償化を
- 私立高校の負担を減らし、高校教育の無償化をすすめていこう
- 高すぎる大学・短大・専門学校の学費をすみやかに半額へ。高等教育の無償化をめざそう

### 子どもが大事にされる保育環境を

- 低すぎる国の保育士配置基準を倍化して、少人数の保育環境を

### お金の心配なく、子育てできる社会に

- 子どもの医療費無償化を広げよう
- 児童手当の支給を18歳まで引き上げを
- 児童扶養手当・就学援助の拡充が必要

### ジェンダー平等の日本へ 政治の転換を

- 男女賃金格差を是正させよう
- 選択的夫婦別姓、LGBT平等法を実現し、多様性が尊重される社会をつくろう

新埼玉

2022年4月号外 日本共産党埼玉県委員会の政策をお知らせします

発行/日本共産党埼玉県委員会 さいたま市大宮区北袋町1-171-1 Tel 048-658-5551 Fax 048-658-5656

# 「子育て」と「仕事」が 両立できないのは 日本だけ?

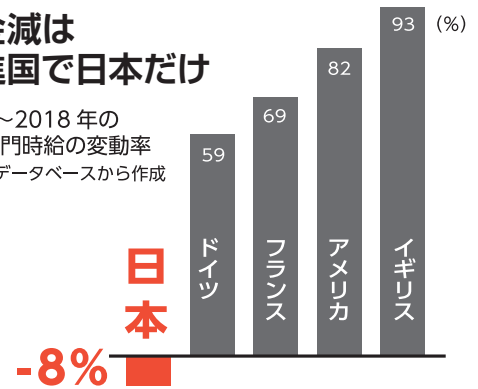
長時間労働、低い賃金、非正規労働者の多さなど日本の労働環境は、ママもパパも働き続けながら子育てする権利をうばっているのではないのでしょうか?

## 埼玉県は…

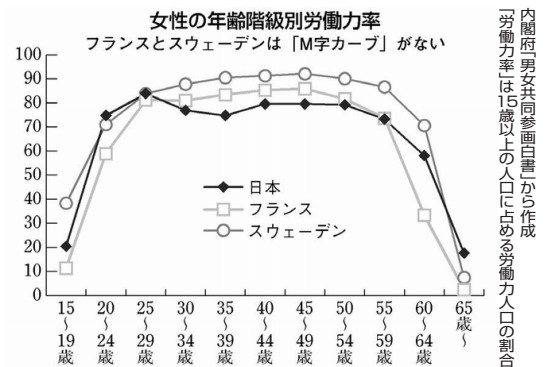
- 子育て期の男性の就業時間が全国で4番目に多い
- 就業を希望する女性は全国第4位と多い  
(以上、総務省「平成29年就業構造基本調査」)
- 全国で6番目にM字カーブ(女性就労の落ち込み)が深い(埼玉版ウーマノミクスプロジェクト2020年)

## 賃金減は 先進国で日本だけ

1997~2018年の  
民間部門時給の変動率  
OECD データベースから作成



	日本	ドイツ	フランス	イギリス
労働時間	2021時間	1652時間	1425時間	1697時間
非正規労働者の割合	39.8%	13%	15.8%	6.4%



梅村さえこ 元衆議院議員

## 子ども医療費無料化にたいする ペナルティー廃止へ

子どもの医療費が無料となる年齢を拡大してほしいというのは子育て世帯の切実な願いです。こうした願いにこたえて全国の91%の自治体が15歳以上の子どものまで医療費(通院)を無

料にしています。(2019年4月1日現在)

さらに、多くの自治体は病院での窓口負担なしに医療がうけられるよう努力しています。ところが国はこうした自治体に対して、『波及増』(=医療費増大)へのペナルティーとして国からの負担金を減らす措置をとってきました。

この問題を2015年3月10日にいち早く国会でとりあげたのが日本共産党の梅村さえこです。その後、就学前についてはペナルティーが廃止されました。引き続き、ペナルティーを全廃したうえで国として制度化し、全国どこでも18歳まで医療費が無料となるよう求めていきます。

日本共産党